



地域日本語支援ニュース こだま 第 240 号

2013.9.12



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

===== 目次 =====

1 ■ともに生きる■

～南相馬市ボランティア活動報告～

神奈川県横浜市港北国際交流ラウンジ発行「広報紙 そよ風」より

日本語教室土曜クラス

侯 雁波（ハウ ヤンボ）

2 ■進学進路ガイダンス情報■

高校進学説明会情報(10 月・11 月)

=====

1 ■ともに生きる■

～南相馬市ボランティア活動報告～

侯 雁波（ハウ ヤンボ）

-----  
横浜市の港北国際交流ラウンジでは 240 名のボランティアと 37 か国、およそ 300 名の外国人が協力して、毎日多彩な活動を繰り広げています。2012 年 12 月、日本語教室土曜クラスの有志が、福島県南相馬市に行き、がれき撤去などのボランティア活動を行いました。この模様を中国出身の侯 雁波（ハウ ヤンボ）さんが港北国際交流ラウンジの「広報紙 そよ風」に報告しています。編集部ではこの貴重な体験記を広く皆様にご紹介したいと思い、ここに港北ラウンジ委員会のご協力を得て「広報紙 そよ風」2013 年 3 月号から全文を記載いたします。横浜市港北国際交流ラウンジの詳細と、東日本大震災被災地支援関連情報は下段をご覧ください。☆☆☆☆☆☆  
-----

今回、私たち（土曜クラス学習者7名）は南相馬市ボランティア活動センターを通じて、2日間（12月8～9日）のボランティア活動をしてきた。そこで感じた「人の温もりや助け合うことの大切さ」、そしてこの目で見た悲惨な光景も含めた現状をラウンジの仲間や多くの人達に伝えようと思う。

出発は12月7日21時30分、東京駅で落ち合いレンタカーで出発した。徹夜の運転、及び車内泊の後、翌日の8時30分に南相馬市ボランティア活動センターの集合場所に到着。その日、各地域から参加のボランティアなど約70人が集まった。我がチームの活動内容は、津波による被災者宅の屋内片付けだった。部屋の中の物を分類し、フトン袋に入れ、外の被災者宅敷地の道路近くにまとめる作業だった。

まず初めに、被災者宅の周辺の下見をした。2階建ての屋上に溜まっている泥や倒れた壁が、当時の津波の高さと恐ろしさを生々しく今に伝えていた。部屋の中に入った瞬間、あちこちに散らかったアルバムの家族写真、壁に掛かっている賞状、おもちゃ、食器、靴などが津波の残存の泥に混ざりこんでいて、目の前の光景のあまりの悲惨さに言葉を失った。地方特有の土壁が崩れ落ち、押し入れの寝具類が全く使用不可能な物になっていた。これらも全て家の外に運び出さなければならず、余りの重さに押し入れから出すのにかなりの労力が必要になった。震災後の1年9か月目、全く手つかずの被災者宅がまだ沢山残っていることから、復興への道の長さを改めて感じた。この日の活動は午後3時半ごろにおわり、ボランティア活動センターに戻った後、工具などの洗浄・片づけを行った。

翌日の活動内容は、依頼されたお宅の敷地内の草刈りだった。震災後長い年月が経過し、草も生え、かなり伸びた状態になっていた。下見を終え、草刈り機を装備して草刈り本番に入った。背丈より高く伸びた草をきれいに刈り倒すのはなかなか気持ちがいい。腕には徐々に筋肉痛を感じはじめていたが、反面心には爽やかな充足感、いい気分で最後の日の活動の終わりを迎えることができた。別れ際、ご主人が握手しながら「本当にありがとうございます。長い間の心のしこりがやっと溶けました。」と言われました。この言葉を聞き、久々に胸を締め付けられる思いがした。原発に近かったということで、長い間、またこれからも、忍耐を強いられなければならないだろう。この教訓を生々しい体験から学びとってほしいと思う。

一通り活動を終えて振り返ってみると、被災地の復興への道はまだまだ長い

と思う。多くの人にもっと被災地・福島に関心を持って欲しい。2 日間という短い時間だったが、力になれて本当によかったと思う。人のために何かをするのは決して簡単なことではない。でも、難しいことではないし、これは自分の気持ち次第だ。活動センターの人、各地からのボランティア参加者、南相馬の皆さん、本当にたくさんの人から元気をもらった。ありがとうございます。

※南相馬市ボランティア活動報告は港北国際交流ラウンジのホームページ上「広報紙 そよ風」に写真とともに記載されていますのでご覧ください。

#### ●横浜市港北国際交流ラウンジ

港北国際交流ラウンジは、横浜市の委託を受け、ボランティアが運営と活動をしています。新幹線の新横浜駅と東横線、菊名駅の間地点にある2階建の建物の中には 情報コーナー、図書コーナー、研修室などがあり、ラウンジのフロアは活気に満ちています。生活に役立つ情報提供も多種多様にあり、日本語教室は水曜を除く毎日開催されています。こども達にも学習支援を行っており、小中学生に日本語や教科の支援を土曜日午後に実施しています。他にも茶道、華道、書道といった日本の伝統文化を学ぶ教室も行っています。「広報紙そよ風」は年に4回発行されています。

#### ●東日本大震災被災地支援 関連情報

未曾有の震災からちょうど2年半が経ち、復興支援の取り組みが進む一方で、被災地ではまだ多くのボランティアの手が必要とされています。ボランティアに求められる活動の内容は、地域によって異なりますが、がれきの除去や清掃といった力仕事は未だ必要とところがある中、買いものや引っ越し補助など被災者の生活支援、ふれあいサロンやイベント実施といった交流活動への参加も多く求められてきているようです。

各地の被災者支援ボランティア活動について、詳しい情報は下記のホームページや PDF などに掲載されています。どうぞご参照ください。

\*厚生労働省ホームページ

[https://www.mhlw.go.jp/bunya/seikatsuhogo/volunteer\\_tohokutaiheiyo.html](https://www.mhlw.go.jp/bunya/seikatsuhogo/volunteer_tohokutaiheiyo.html)

\*全国社会福祉協議会ホームページ

<https://www.saigaivc.com/earthquake/311/>

---